

# 金剛地区の住民を対象とした 自己充足度の調査

大阪大谷大学 人間社会学部 人間社会学科  
中村ゼミ 2回生

井上和樹・田中秀学・中内太智

# はじめに

- 問題意識
  - 近年の金剛地区では空家率が高く、高齢化が進んでいる。
  - 金剛地区には、地域としてどのような課題があるのか。
- 研究課題の選定
  - データサイエンスの学びの一貫として、意識調査を企画
  - 金剛地区において、住民の方々はどの程度の幸福感（自己充足感）をもって暮らしておられるのかについての調査を行う
  - 調査結果から、金剛地区における暮らしに関する課題を抽出する

# 先行研究によるさまざまな幸福感尺度

著者	尺度の概要	特徴
角野(1994)	5項目からなる日本版「 <b>人生に対する満足尺度</b> 」	大学生や社会人を対象とした調査をもとに、妥当性を検証 後年に渡るまで多用されている
伊藤ら(2003)	WHOが作成したストレス検査尺度をもとに、心理的健康度とストレス度を測定する40項目から17項目を選定した「 <b>主観的幸福感尺度</b> 」	大学生・短大生を対象とした調査をもとに、妥当性を検証
島井ら(2004)	海外で開発された「 <b>主観的幸福感尺度</b> 」(SHS)を日本に適した形で修正したもの	大学生を対象とした調査をもとに、妥当性を検証
高須ら(2019)	NPO法人「日本の安全保障フォーラム」が開発した安全保障指標のうちの「 <b>主観的自己充足度</b> 」	インターネットにより全国を対象とした調査を実施し、他の客観的な統計データとの整合性を検討

# 本取組で使用した設問項目

- 高須ら(2019)の成果を利用して自己充足度を測定

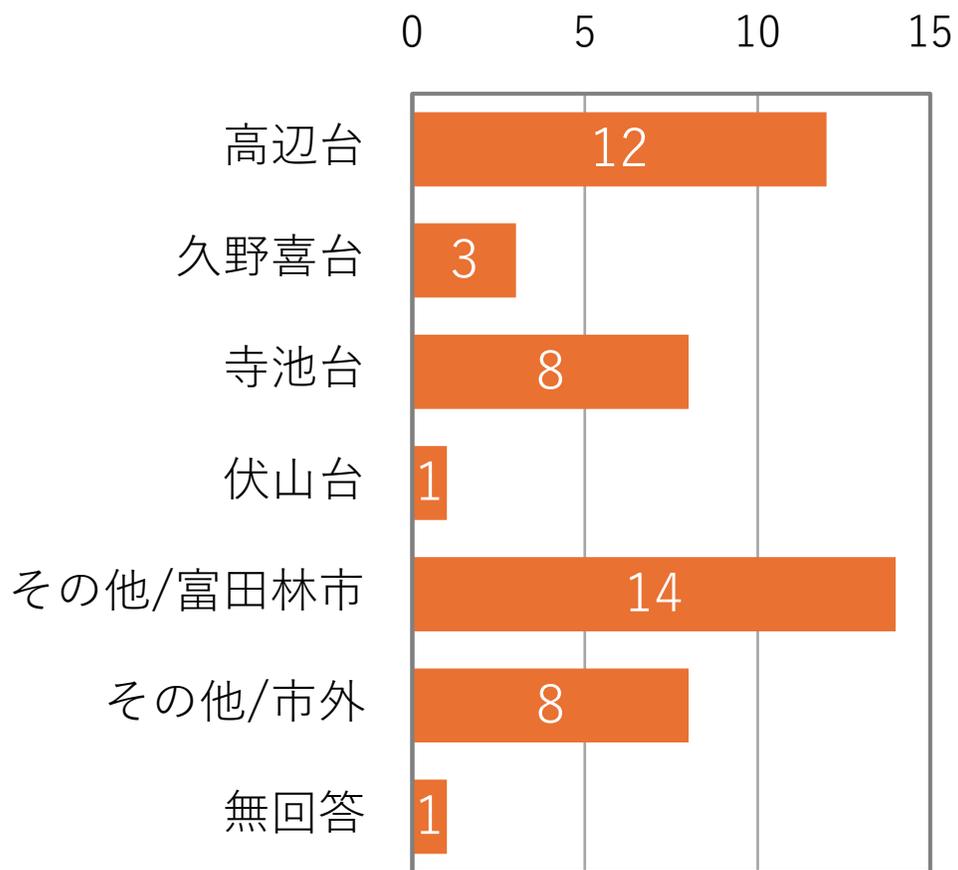
No.	設問
1	地域の絆は強いのか
2	どんなことに自分を最も誇りに思うか（仕事、家族、友人、地元、……）
3	生きがいを感じることは何か（仕事、家族、友人、趣味、社会貢献活動……）
4	人生に満足をしているか
5	人生が将来今より良くなると思うか
6	困った時に相談するのは誰か（家族、友人、先生、同僚、近所の人……）
7	どんな時に孤独で辛いのか（一人のとき、家族といるとき、感じない……）
8	困っている人を助けたことがあるか（仕事、経済的困窮、病気……）
9	地域に外国人が増えることを歓迎するか

# 調査方法

- 調査方法
  - 質問紙調査
  - 日時：2024年9月28日(土)・11月24日(日)
  - 調査対象：  
金剛地区で行われた地域のイベントにて、  
参加された一般の方々
- 調査項目
  - 回答者の属性（年齢・性別・在住地区等）
  - 自己充足度の尺度
- 回答数
  - n=47（金剛地区在住者：n=24）

# 回答者の属性

## • 居住地

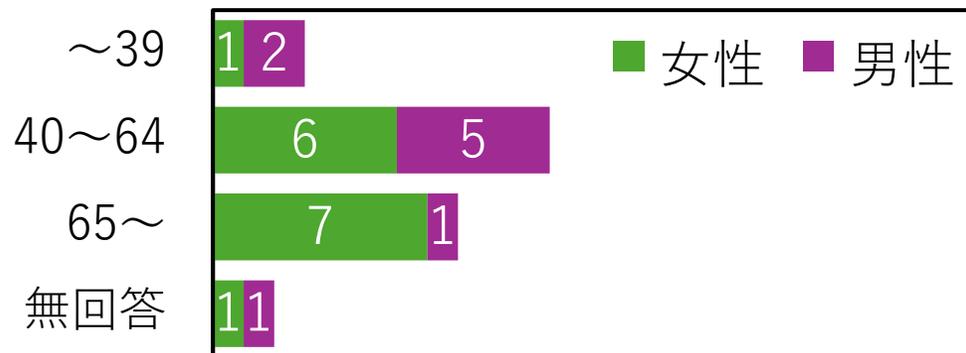


## • 性別・年齢

回答者の性別・年齢構成（全体）

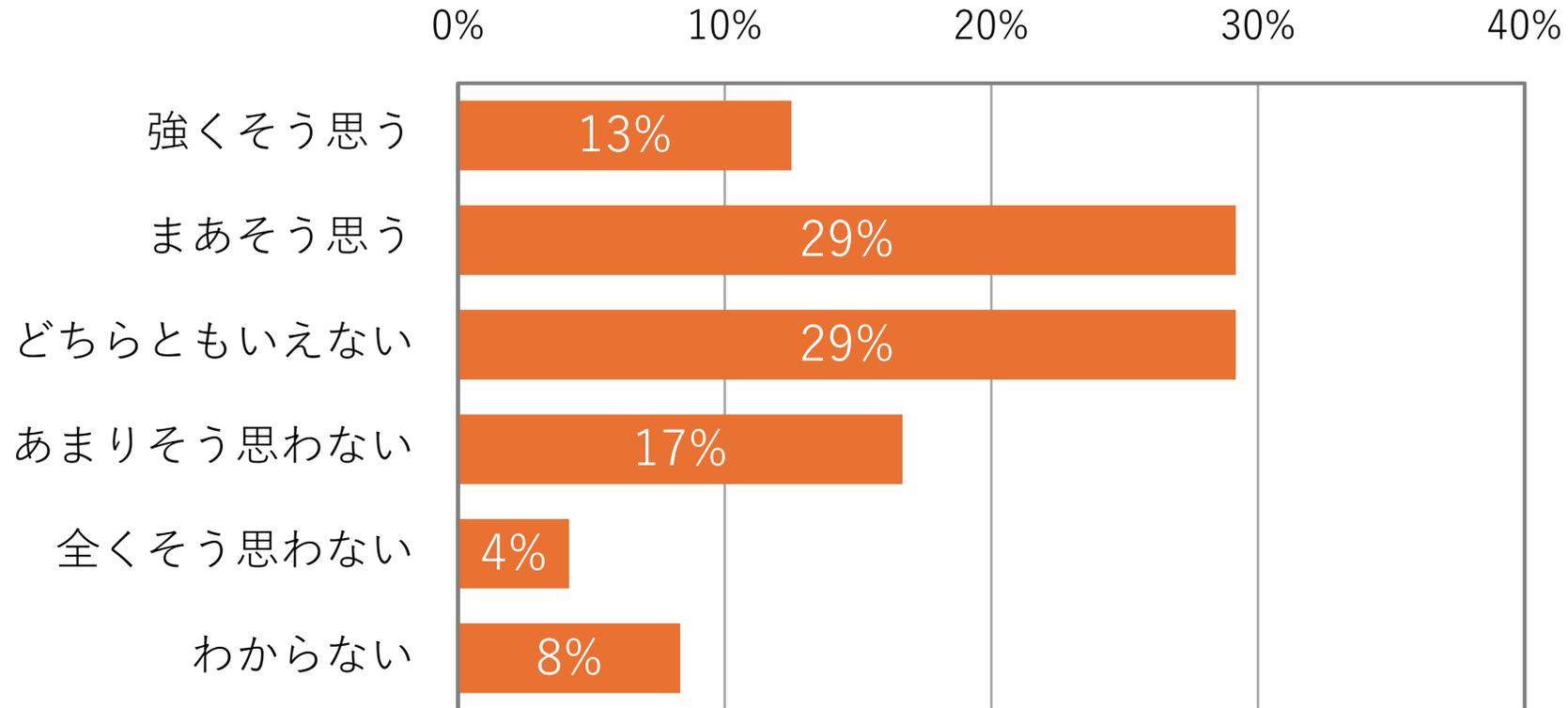


回答者の性別・年齢構成(金剛地区)



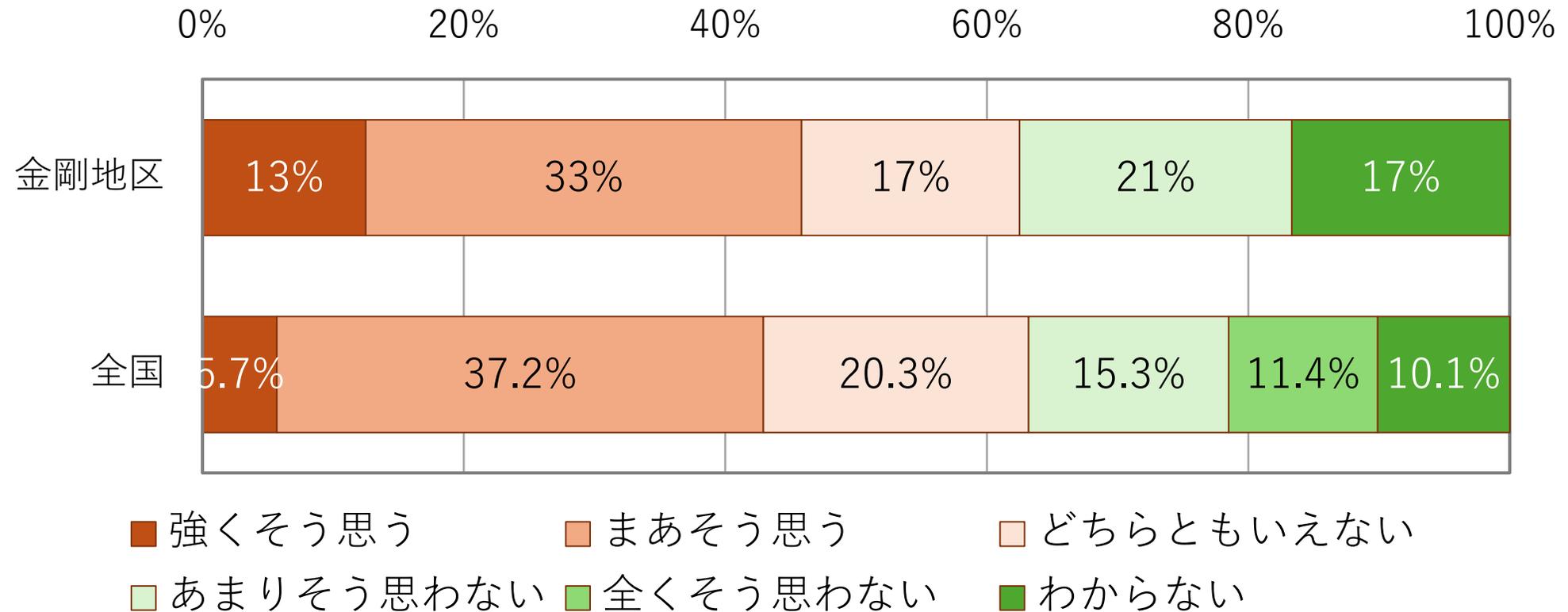
# 調査結果: 地域の絆

- 問1: お住まいの地域の絆は強いと思うか



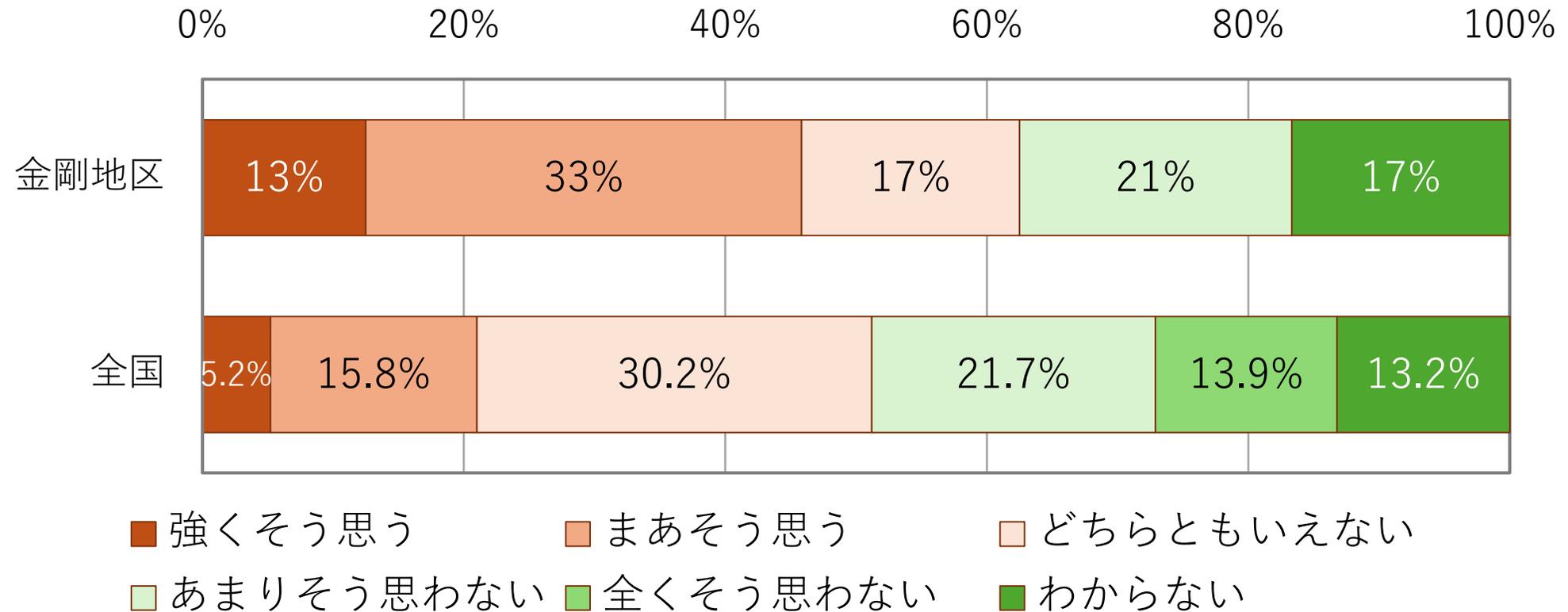
# 調査結果：自己充足度(1)

- 問4: 自分の人生に満足しているか



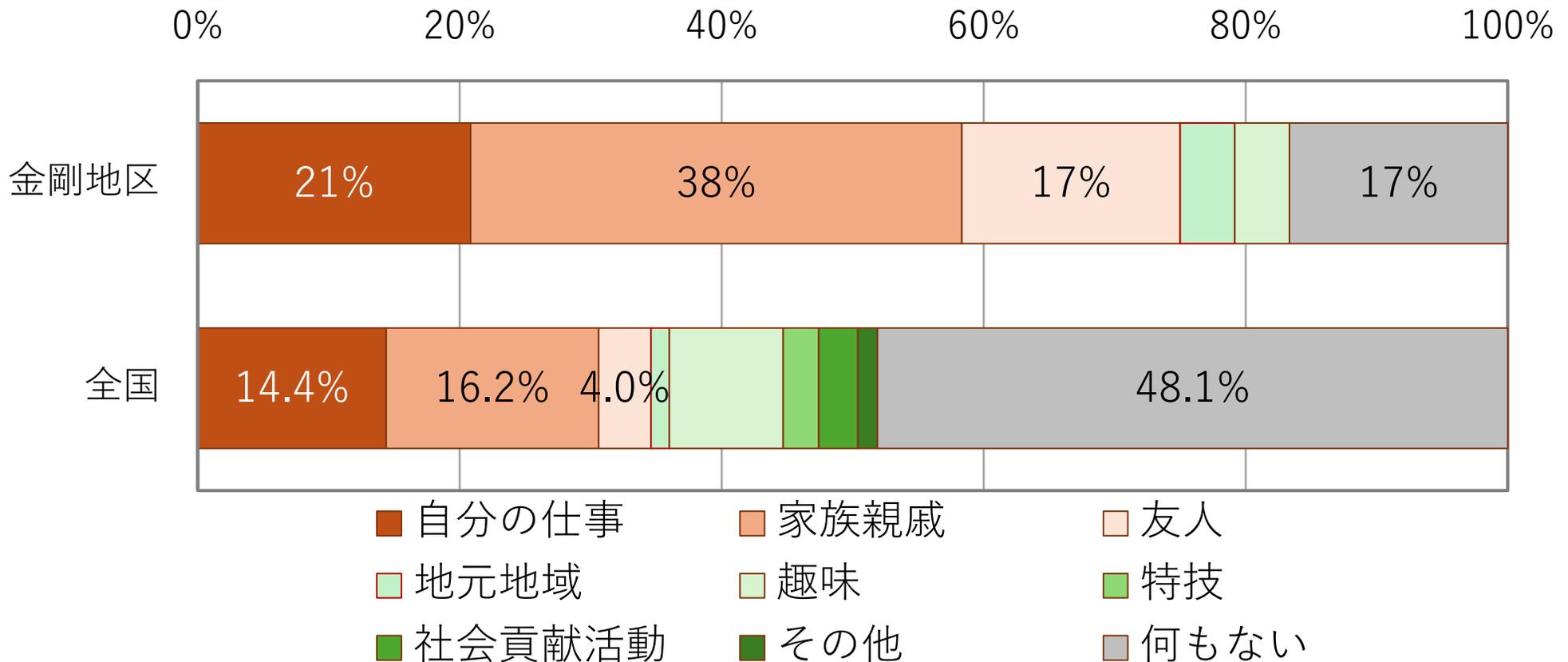
# 調査結果：自己充足度(2)

- 問5: 自分の人生は将来今より良くなると思うか



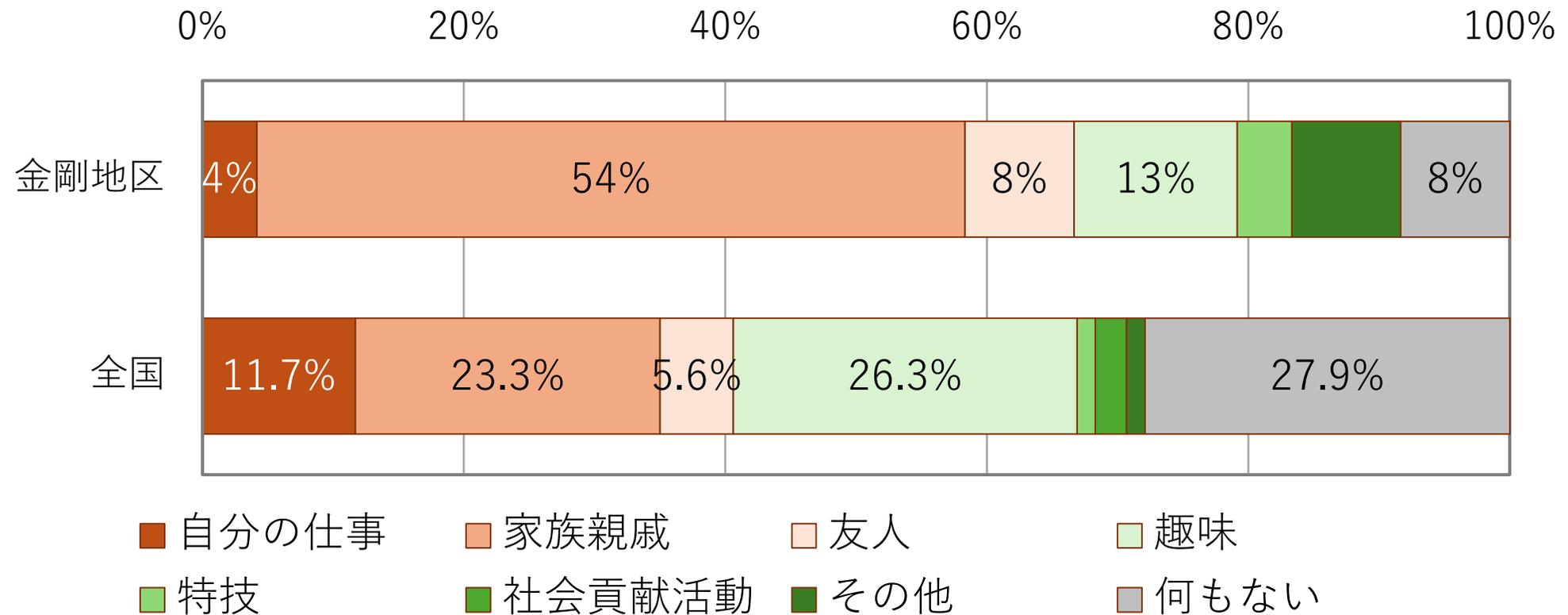
# 調査結果：自己充足度(3)

- 問2:どんなことに自分を誇りに思うか



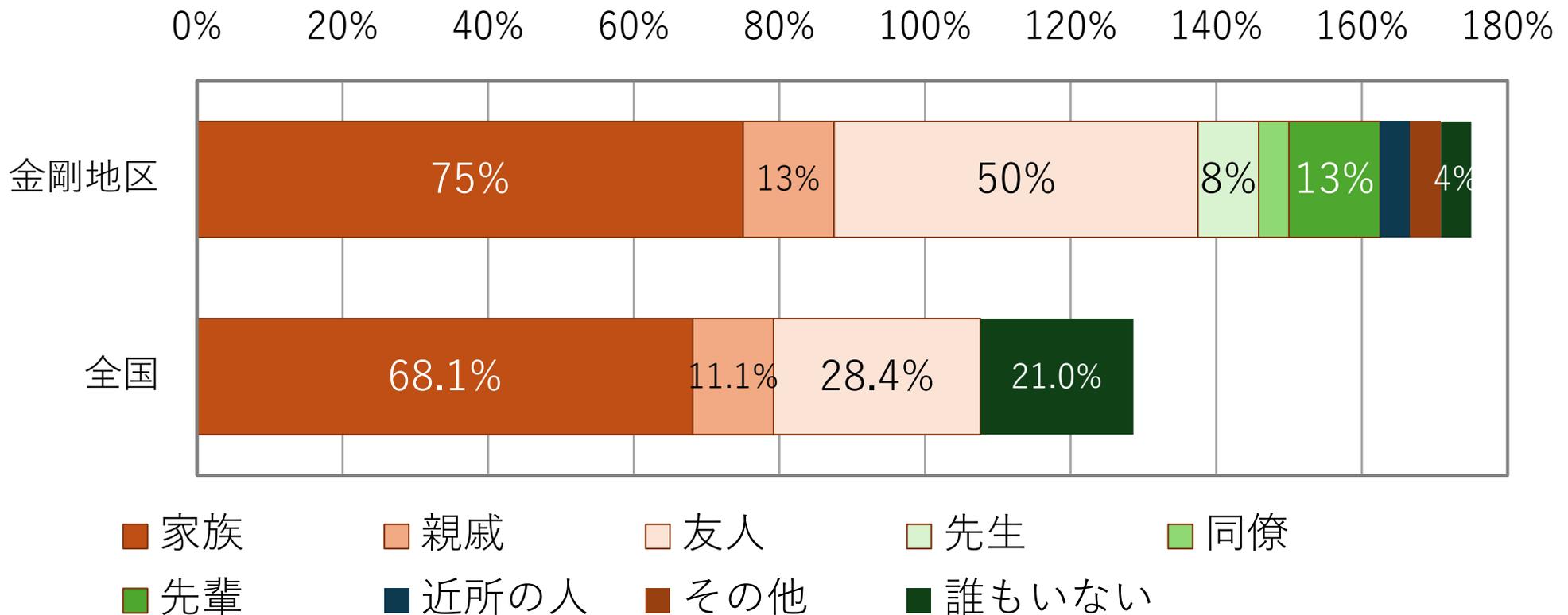
# 調査結果：自己充足度(4)

- 問3: 最も生きがいを感じるの何か



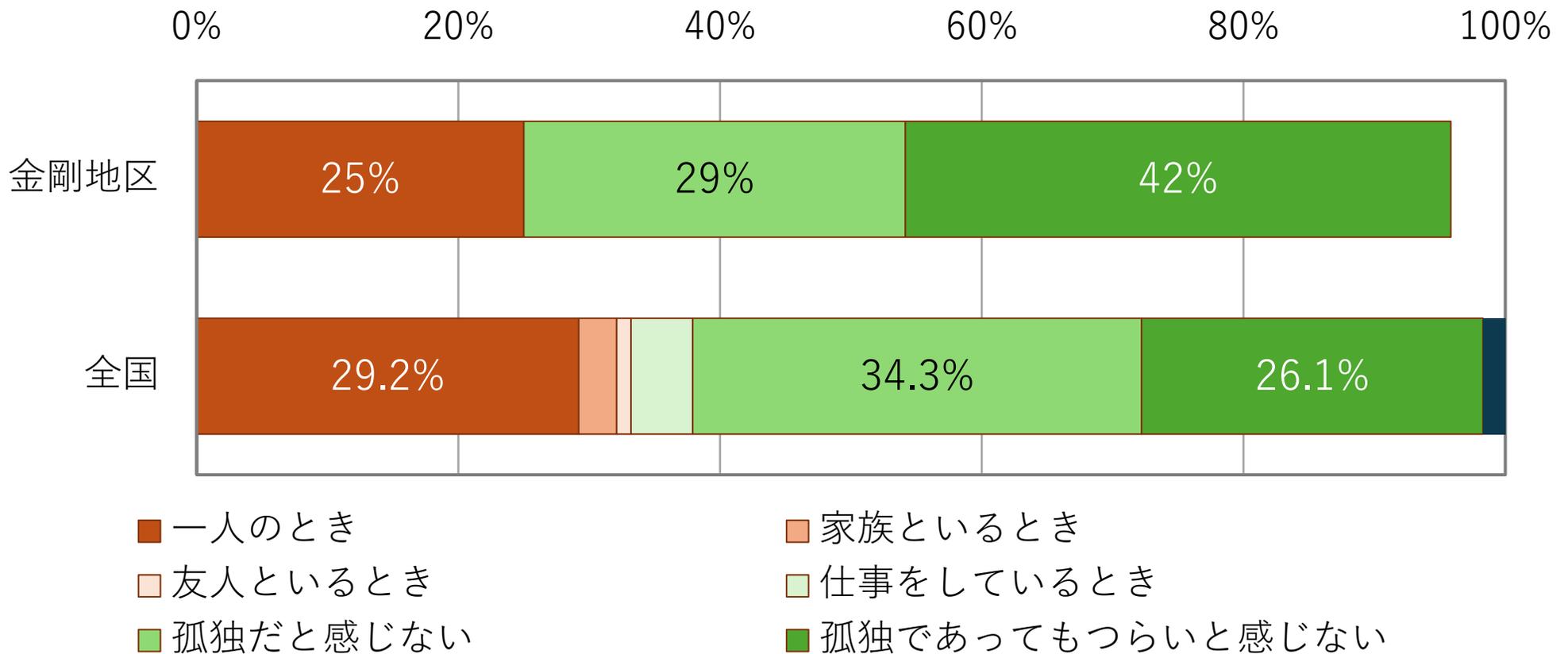
# 調査結果：連携と孤立(1)

- 問6: 困ったときに相談する相手はいるか (複数回答可)



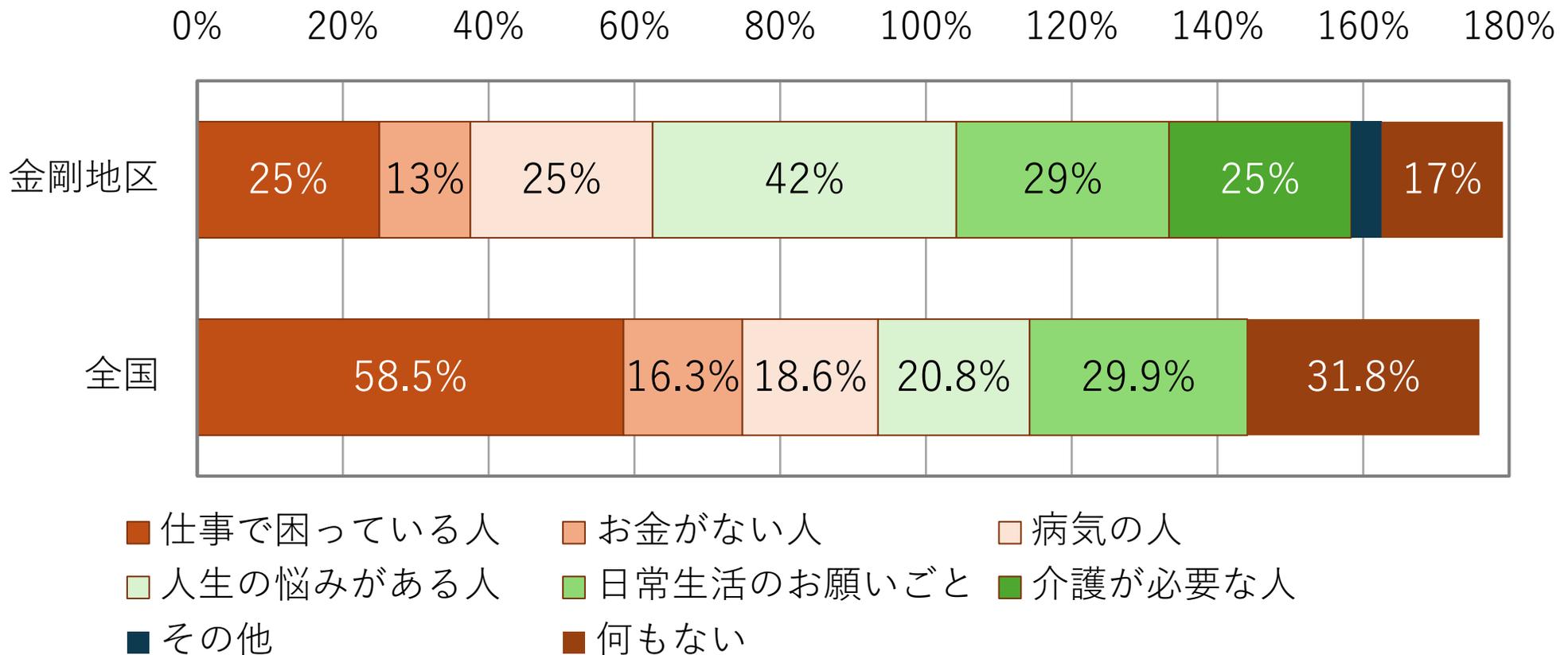
# 調査結果：連携と孤立(2)

- 問7: どんなときに孤独で辛いと感じるか



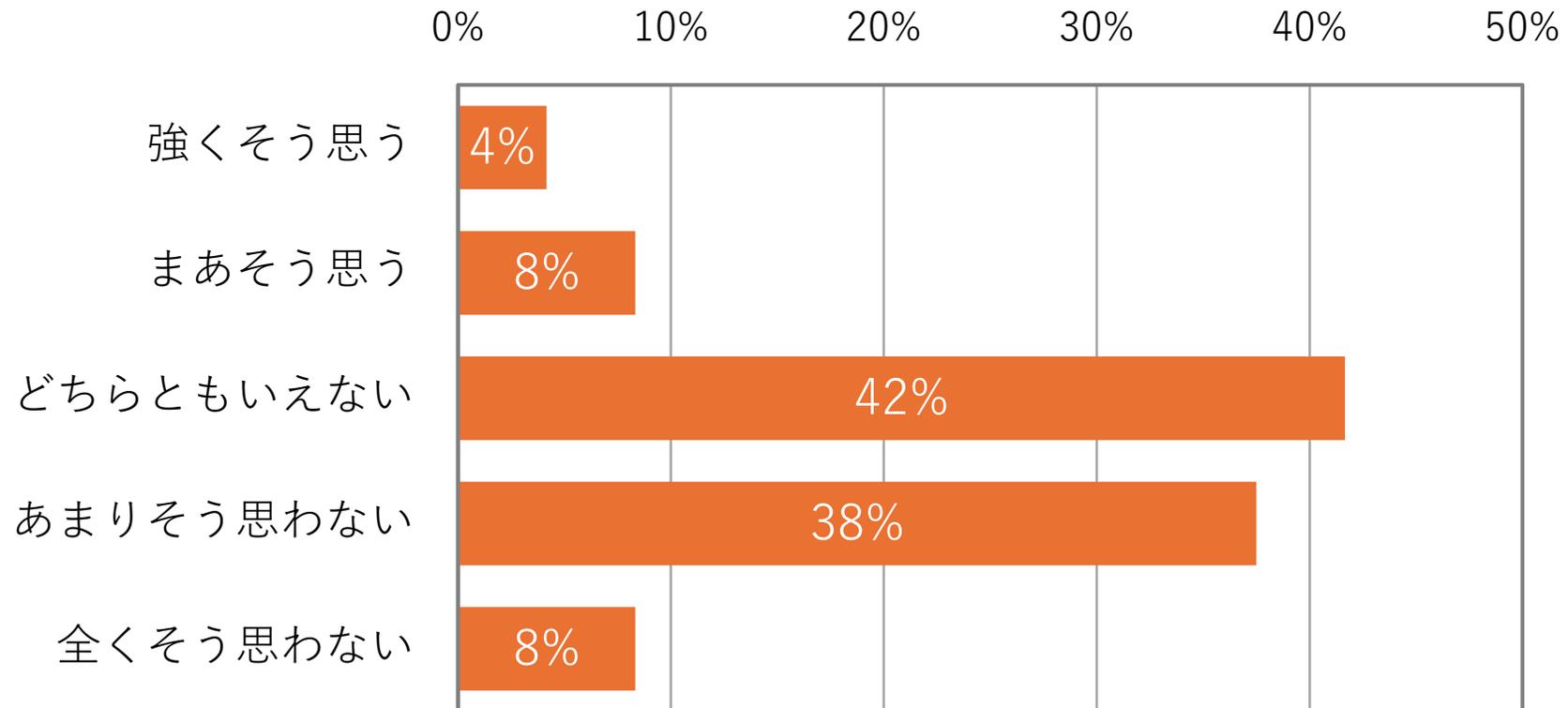
# 調査結果：連携と孤立(3)

- 問8: 困っているときに人を助けたことがあるか (複数回答可)



# 調査結果：外国人との共生

- 問1: 地域に外国人が増えることを歓迎するか



# 考察

- 金剛地区の人たちは自己充足度が高い
  - 全国平均に比べて、ポジティブな意見が多く、自己充足度が高い
  - 家族との連携や自身への肯定が自己充足度の高さにつながっている
  - ほとんどの人が生きがいや誇りを持っている
- 金剛地区の人たちは連携度が高い
  - 一人であっても辛いと感じない人が多い
  - ほとんどの人は相談相手がいる
- 外国人との共生について
  - より多くの交流の機会が期待される

# 課題

- 調査自体の問題点
  - 回答者数を多く集めることができなかった
  - イベントでの調査であるため、バイアスが発生している可能性がある  
→ より広範な調査が望まれる
- 金剛地区の課題の抽出について
  - 課題を抽出することが困難であった  
→ 設問の見直し、質的調査の必要性
- 自己充足度（幸福度）について
  - いくつかの尺度について検証が必要

# KLLPの活動を通してのふりかえり

- 金剛地区への深い理解
  - 金剛地区のことをより深く知ることができた
  - アンケート結果に意外性を感じた
  - アンケート調査に協力的な人が多かったのがありがたかった
  - 自身の在住地区に比べるとイベント時には、活気や華やかな雰囲気を感じられた。
- 活動を通じた知識・能力の高まり
  - ネットではなく声かけをした調査によって、社会参加の意欲が高まり、意義を感じることができた。
  - コミュニケーション能力が高まった
  - まちづくりを目的としたイベントの意義が理解できた